

## ふくしま再生の会報告会「福島・飯舘村 再生の意味」グループミーティングまとめ

日時：2014年5月25日 16:00～17:30

場所：東京大学農学部弥生アネックス・セイホクギャラリー（ポスター展示会場）

村民：菅野宗夫／司会：小川唯史／書記：中村さん（和歌山大）／参加者：約15名

G グループは、セイホクギャラリーのポスター展示会場で菅野宗夫さんと参加者たちとの対話を行った。

はじめに宗夫さんが、事故後の経緯、「ふくしま再生の会」の創始者たちとの出会いと「ふくしま再生の会」の始まりについて語り、放射線モニタリングを中心に活動内容を解説した。

### 宗夫さんの発言趣旨

事故後の最初のころは村民の中にある、行政や専門家に対する不信感は非常に強く「御用学者を集めて何をしているんだ。どうせごまかされるに決まっている」というような反応が多かった。しかし継続して活動していくうちに村民の見る目も徐々に変わり、行政からも存在を認められるようになってきた。

特に以下の点が重要だと思う。

- ・村民自身が測り、実態を知ることの重要性
- ・村民と外部からの協力者、専門家などが協働することの重要性
- ・実際に来て見ることの重要性

### 参加者からの意見・質問

(1)飯舘村に行ったことがあるが、小学校の校門の近くで $10\mu\text{Sv/h}$ 以上の場所があつて驚いた。測定器がおかしかったのではないかと思つたが、実際にそんなことはあるのだろうか。

(2)米国で教員をしている。海外では、福島は危険で近寄れないところと一般的に信じられている。こういう人たちに実態を伝える簡単な言葉はないか。

(3)東北の被災地を巡っている。被災地ごとに情報の発信力に違いがあり、そのことによつて復興にも違いが出ているのではないか。

(4)どこか一つの地区で徹底的に除染を実施し、そこに住めるということを実証することが重要ではないか。再生の会が中心となつて佐須地区でそれを実施するように国と折衝してはどうか。

### まとめ・反省点

司会者の準備が不十分のために、宗夫さんの講演+Q&Aという形態になってしまい、宗夫さんと参加者との対話まで発展させることができなかった。

質問のレベルや関心の方向性もばらばらであった。

対話が成立するために必要な基本的な知識の共有という点から考えると、そもそも非常に困難な試みであったということも言える。そのことを事前に十分認識して準備にあたるべきであった。

ふくしま再生の会が行っている各種のプロジェクトについて、

- ・それぞれのプロジェクトの意義
- ・現在までに到達している知見（現時点での結論）
- ・今後の展望

などを簡潔にわかりやすくまとめた印刷物（教科書）などを用意すべきかもしれない。

（報告者：小川唯史 2014.06.15）